

令和5年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価 概要（全体）

豊田市公共交通会議

平成17年8月29日設置

平成28年3月 豊田市公共交通基本計画（網形成計画）策定
（計画期間：平成28年4月～令和8年3月）

令和4年10月 豊田市地域公共交通計画に改定
（計画期間：令和4年10月～令和8年3月）

令和4年6月27日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

● 計画の期間

令和4年10月から令和8年3月

● 地域の特性と背景

- ・ 都市と山村を有する広大な市域(918km²)、自動車に大きく依存した移動状況(分担率72%)
- ・ 公共交通ネットワークを維持し、自助・共助・公助を組み合わせた生活交通を展開

● 将来像

人々が暮らしやすく「魅力」「活気」「交流」を生む交通社会の実現

● 計画の基本方針

持続可能なまちを支える交通体系の構築

● 計画の基本目標

- I まちのにぎわいを生み出す交通
- II 多様な移動手段を活動できる交通、
- III ミライへつなげる交通

●

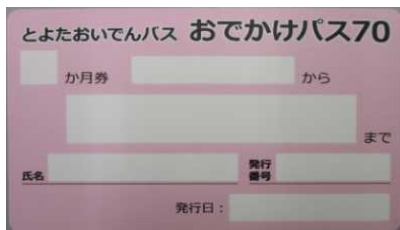
	公共交通 利用者数	市財政負担 利用者1人あたり
基準年 (R1)	9.4万人/日	1,490円/年
現状値 (R2)	6.1万人/日	2,190円/年
目標年 (R7)	7.7万人/日	1,580円/年



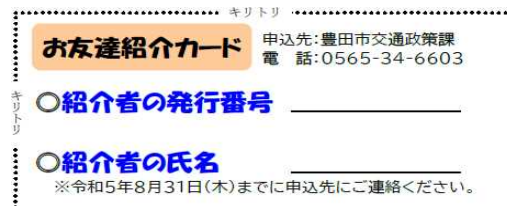
フィーダー系統	目標値
稲武地域バス (デマンド)	収支率：1.3% 利用者数：2,119人
藤岡地域バス (西市野々線・三箇線)	収支率：5.4% 利用者数：22,843人

●評価期間における目標を達成するための主な事業 ●は地域間幹線系統、★は地域内フィーダー系統含む取組

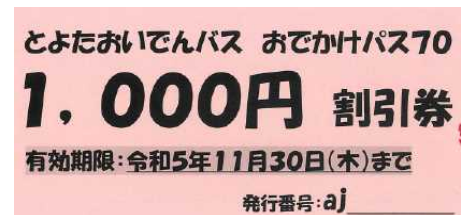
取組内容	経緯／目的	実績	分析・考察
おでかけパス70の販売(①) 70歳以上の市内在住者を対象とした高齢者向け定期券を新たに販売(R3.10～) ●券種：1, 2, 3か月券 名鉄バスのシルバーパス65、ゴールドパス70についても合わせてPRを実施	・高齢者の外出促進 ・運転免許返納促進 ・おいでんバスの利用促進	販売枚数(1か月券換算) R3.10～R4.9 : 1,095枚 R4.10～R5.9 : 1,676枚 計2,771枚	購入者へのアンケート結果 (R4) ・外出頻度が増えた(34%) ・気軽に利用できるようになった(85%) →外出促進に効果あり
おでかけパス70の販売促進(②③④) (1) 購入者への特典プレゼント (2) キャンペーン期間中 (R5.6.22～R5.11.30) におでかけパス70を購入した人に対して、メグリアで使える割引商品券又は、豊田市内の映画館 (KiTARA) や商業施設で利用できる1,000円分のお買物券を配布。 ●(2) お友達紹介割引の実施 (3) キャンペーン期間中 (R5.6.22～R5.8.31) におでかけパス70をお友達に紹介すると、紹介した人と紹介された人におでかけパス70の購入時に使える1,000円割引券をプレゼント。 (3) 使いこなしガイドブック作成、配布 (4)	・高齢者の外出促進 ・運転免許返納促進 ・おいでんバスの利用促進 ・おでかけパスの販売促進 ・豊田市内での経済活動の活性化	(1) 日常使いしやすいようにガイドブックを作成。キャンペーンPRと合わせて配布。 (2) 先着100名限定の映画観賞券、お買物券は、R5.8.18に完売し、配布終了。 (3) 1,000円割引券について、14件の使用あり (R5.11末時点)。	沿線の商業施設等と連携することにより、外出意欲の増加に繋がり、おでかけパスの販売実績が昨年度比で約1.5倍 (53%増) となった。



①【おでかけパス70】



②【お友達紹介カード】



③【お友達紹介割引券】



④【ガイドブック】

●評価期間における目標を達成するための主な事業

●は地域間幹線系統、★は地域内フィーダー系統含む取組

取組内容	経緯／目的	実績	分析・考察
新高校生に向けたバス情報の提供(⑤) ● 豊田市駅から高校までの公共交通機関での行き方を記載したマップ及びアクセス案内を高校ごとに作成及びデータ配布。データが読み込めるQRコードを作成、配布し、各学校の配布資料にて活用。	・中学生が高校を選ぶ際の選択肢を広げる ・バスの認知度向上 ・バスの利用促進 (通学利用者の新規獲得)	R5.9～ 11校分作成・データ配布 豊田市HP掲載	学校説明会の機会など様々な場面で活用できるようにデータによる配布、QRコードの作成を行った。高校や保護者からはわかりやすいと好評。一部高校のHPでも公表予定あり。豊田市の公共交通機関を知ってもらえるツールとして役立っている。
転入者向けリーフレット配布(⑥) ● 観光地までの行き方や豊田市の交通について紹介 ・豊田市バスマップと一緒に転入者に配布	・バスの利用促進 ・公共交通機関でお出かけできることを知ってもらう	R4.6～ 全転入者に豊田市バスマップと合わせて窓口で配布	→新高校生を含めた子ども及び親子世帯(利用の少ない年齢層)の利用者獲得を目指し、ラーケーション等のイベントとのタイアップ事業を展開していく。
サイクルラックバスの運行(⑦) 稲武・足助線(快速いなぶ)	・運行事業者からの提案 ・市も警察等関係機関と調整、連携して実施に至る	R4.8～ 運行開始 7名の利用	利用者数が伸び悩んでいる →対象便を増便予定。観光部局と連携し、サイクルルートと合わせてPRを拡大する。
バス利用での特典付与(⑧) ●★ バスで観光地(やな)へ来訪した方に缶ビール1缶プレゼント	・バスの利用促進を目的に継続的に実施している	利用者数(6～10月) R5:305人、R4:249人 R3:152人、R1:442人	公共交通機関を利用するきっかけ作りに寄与 →PR面で沿線市とも連携していく。



⑤【新高校生向け】



⑥【転入者向け】



⑦【サイクルラックバス】



⑧【乗車証明書でのサービス】

● 評価期間における目標を達成するための主な事業 ● は地域間幹線系統、★は地域内フィーダー系統含む取組

	取組内容	経緯／目的	実績	分析・考察
● ★	GTFSデータリポジトリへの掲載 GTFSデータをオープンデータ化するために、（一社）社会基盤情報流通推進協議会が運営するGTFSデータリポジトリ及び豊田市HPに掲載	- 情報受渡等の事務手間削減 - オープンデータ化による民間事業者等のGTFSデータの活用	R5.3～掲載	GTFSデータをオープンにすることにより、公共交通情報の発信及びデータ活用に繋がった。
●	のりもののカードの作成及び配布 （⑨） 名古屋鉄道（株）、運行事業者、県内の自治体と連携して、バスや電車といった公共交通の写真をあしらったカードを作成・配布	- 名古屋鉄道（株）からの提案 - バスの利用促進 - バスの認知度向上	R5.9.30開催のつとよた産業フェスタにおいて、約200枚配布	取組自体の認知度が低い →沿線市等と連携して、取組を押し広げていく。
●	イベント対応 おいでんまつり終了時間帯に合わせ21時台の臨時便を運行	イベント来場者のバスでの帰宅手段の確保	5路線を増便 - 最大31人/便	利用者増 バスでの来場が可能に →利用促進に効果あり
●	燃料電池バスSORAの運行・活用 （⑩） - 土橋・豊田東環状線及び藤岡・豊田線（西中山経由）において3台運行 - 豊田市議会議員一般選挙において燃料電池バスを移動期日前投票車両として活用	- 燃料電池バスのPR - バスの認知度向上	豊田市議会議員一般選挙投票者数 R5.4.19時点 足助病院185名 R5.4.20時点 中京大43名 R5.4.21時点 愛工大59名	R4.4～新たに1路線増やして運行したり、各種イベントで展示したりすることで、より多くの市民に燃料電池バスを知ってもらい、バスに興味を持ってもらうことができた。



⑨ 【のりものカード】



⑩ 【燃料電池バスSORA】

●計画目標とその達成状況 ◎は旧計画の評価指標

計画目標・評価指標・参考指標		目標値	達成状況				
		R7	R2	R3	R4	R5	R6
1日あたりの公共交通利用者数	公共交通	77,000人	58,785人	64,979人	70,978人		
	◎バス	17,000人	8,669人	12,415人	13,519人		
利用者1人あたりの市の財政負担額	おいでんバス	280円/年	390円/年	340円/年	310円/年		
	地域バス	1,300円/年	1,800円/年	1,730円/年	1,600円/年		
	合計	1,580円/年	2,190円/年	2,070円/年	1,910円/年		
おいでんバス及び地域バス運営の収支率、市民1人あたりの財政負担額	◎収支率	40%以上	32.6%	35.0%	36.6%		
	◎市民1人あたりの負担額	2,300円/年以下	2,566円/年	2,553円/年	2,503円/年		

- ・目標は未達成だが、公共交通全体の1日当たり利用者数は7万人を突破し、回復傾向である。
- ・利用者1人あたりの財政負担額も減少傾向にあり、改善しつつある。

●地域内フィーダー系統補助対象路線の評価（R4.10～R5.9）

系統	収支率・利用者数		状況	利用状況の考察と今後の方針
	目標	実績		
稲武地域バス (デマンド)	1.3% 2,119人	2.1% 3,644人	達成	・小中学生の通学利用が主であり、通学者の増加により利用者は増加しているが、一般利用は伸び悩んでいる。
藤岡地域バス (西市野々線・三箇線)	5.4% 22,843人	6.6% 23,984人	達成	・利用者数はコロナ前の状況に戻りつつあり微増傾向にある。運行経費も企業努力により収支率は増加した。

●基幹バス（R4.10～R5.9）

	系統	利用者 (昨年)	利用者 (実績)	増減	収支率
地域間幹線系統補助対象路線	藤岡・豊田線(加納)	82,754	94,704	↗	31.8%
	小原・豊田線	157,909	167,894	↗	37.9%
	藤岡・豊田線(西中山)	101,216	105,365	↗	51.3%
	旭・豊田線	80,446	85,971	↗	22.2%
	さなげ・足助線	182,465	197,221	↗	26.1%
	下山・豊田線	177,560	197,341	↗	41.4%
	高岡ふれあい路線②	87,328	100,771	↗	26.8%
補助対象外路線	旭・足助線	7,812	8,715	↗	6.6%
	稲武・足助線	31,096	29,880	↘	9.4%
	保見・豊田線	350,426	392,882	↗	55.3%
	中心市街地玄関口バス	72,315	78,918	↗	27.6%
	土橋・豊田東環状線	768,831	842,381	↗	42.0%

●地域バス（R4.4～R5.3）

★フィーダー路線含む

系統	利用者 (昨年)	利用者 (実績)	増減	収支率
松平※	15,327	1,818	↘	5.5%
稲武★	7,656	7,818	↗	2.2%
保見	1,436	1,384	↘	1.9%
石野	1,801	1,946	↗	3.2%
上郷	5,612	4,156	↘	4.3%
旭	1,906	1,950	↗	1.2%
足助	4,113	3,802	↘	2.1%
下山	7,235	12,806	↗	7.1%
藤岡★	28,109	29,825	↗	5.5%
小原	3,361	3,574	↗	2.5%
高岡	126,189	132,621	↗	19.8%

※令和4年4月～松平地域バスのスクールバス運行が廃止されているため、利用者数が大幅に減少している。

【考察】

- ・通学利用が多い路線はコロナ禍前の数値まで戻りつつあるが、テレワーク等の普及により通勤利用客の回復が伸び悩んでいる。また山村部を中心に人口が減少していることから、山村部を運行する路線や地域バスについては、利用者数は減少傾向にある。
- ・地域間幹線系統補助対象路線である名鉄バスの矢並線、大沼線、岡崎・足助線についても、コロナウィルスの5類感染症への移行をきっかけに通勤通学利用が回復し、利用者数は昨年度比で増加傾向にある。

前ページまでの分析・考察から得られた課題

課題①市財政負担額について

利用者 1 人あたりの市財政負担額は、年々減少傾向にあり、目標値の達成に向けて引き続き利用促進等の取組が必要である。

課題②一般利用・通勤利用の伸び悩み

山村部を中心に人口減少が進み、一般利用客が伸び悩んでいる。テレワーク等の普及により、通勤利用客の回復が伸び悩んでいる。

課題③子ども及び親子世帯の利用者獲得

新高校生に向けたバス情報の提供や転入者向けリーフレットの配布を行ってきたが、子ども及び親子世帯などの利用の少ない年齢層がいる。

昨今の公共交通を取り巻く課題

課題④運行経費と運賃収入の差の拡大

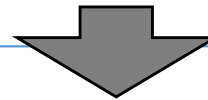
運行経費：人件費及び燃料費の高騰などに起因し増加傾向
運賃収入：昼間及び休日の利用が停滞

課題⑤ネットワークの維持

公共交通の利用のみで通勤通学、通院や買い物ができる人の割合が減少

課題⑥運転手不足による路線バス危機

- ・改善基準告示に伴い、現行ダイヤを維持することが困難
- ・各運行事業者が運転手確保に苦戦



今後の取組方針

利用の少ない年齢層を獲得し、収入増加を目指す

- ・バス利用での特典付与など観光地と連携した利用促進
- ・子ども・親子対象のイベントタイアップ事業
- ・ラケーションに合わせた 1 日乗車券等の発行
- ・上記事業のPR方法の改善（課題①、②、③に対応）

運行形態の転換や運賃について検討し、路線の維持を目指す（地域バス）

- ・利用者の実態やニーズ合った運行形態の構築（小原地域バスの予約アプリ新システム運行開始等）
- ・共助交通の推進・連携により生活交通を維持（課題②、④、⑤に対応）

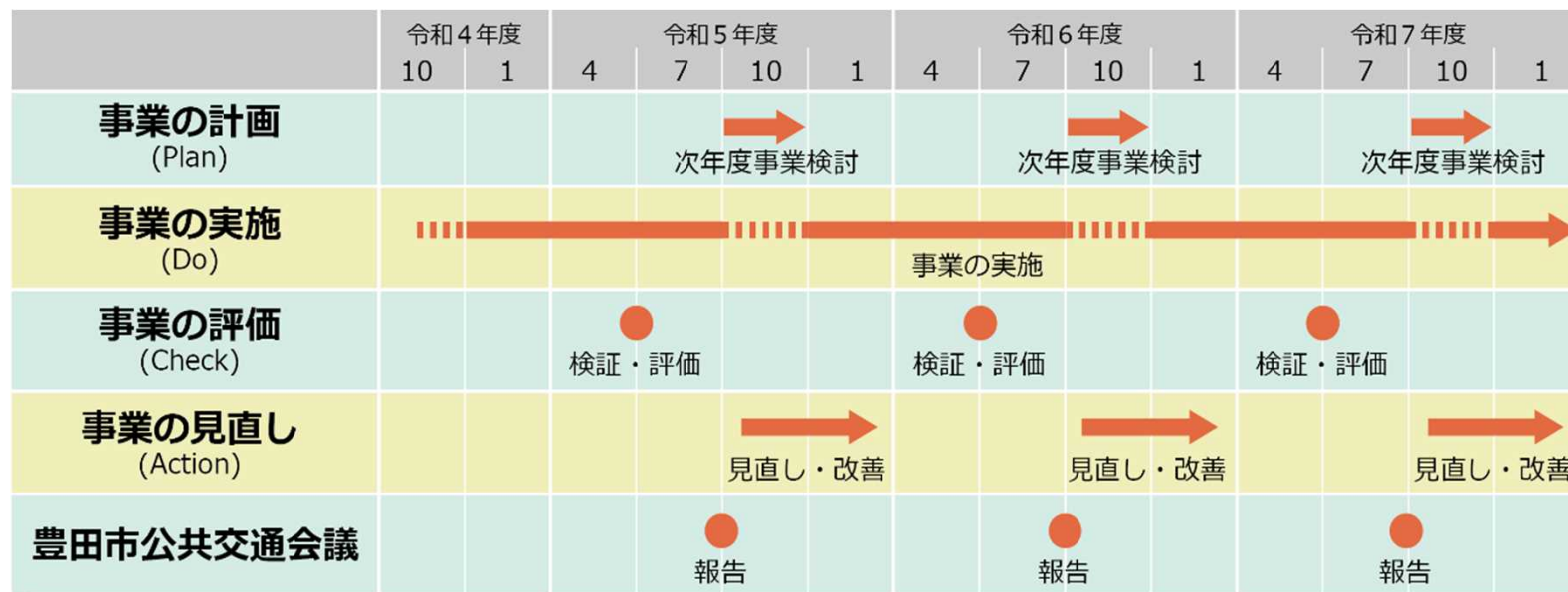
沿線の環境変化に対応し、利便性の向上を目指す（基幹バス）

- ・全 12 路線のダイヤを見直し、利便性を確保
 - ・運転手確保に向けたPR実施
 - ・交通結節点の機能強化（駅前広場の整備等）
- （課題②、⑤、⑥に対応）

二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回 ・各地域の運営協議会において、自らの地域の公共交通機関に係る利用促進や改善策等を積極的に協議していることを評価する。 ・乗車証明書でのサービス、新高校生向けや転入者向けの案内などのように、今後も連携が広がることを期待する。 前々回 ・停留所の新設やダイヤ調整などの住民ニーズを反映した改善を評価する。 ・児童や生徒の利用が見込まれる路線については、重要な通学手段として引き続き確保・維持し、利用しやすい環境づくりや利用促進等を進められるよう期待する。	稲武地域バス ・利用実態に合わせてバス停の新設を随時実施している。 ・取組に対する自己評価を行い、利用促進策を検討・実施している。その一環として、時刻表の配布、イベント時にPRブースを設置し、地域バスの周知を行った。	高齢者が住み慣れた地区で暮らし続けるために、「安全・安心・便利」な移動手段として、地域住民のアンケートを参考に現路線を改善していく。また、経費削減の具体化を図ると共に利用促進PRを行い利用者数の増加につなげていく。
	藤岡地域バス ・通学に合わせたダイヤを設定している。 ・毎年、取組に対する自己評価を行い利用促進策を検討・実施している。その一環として、地域バス運営協議会では、広告を掲載した時刻表と路線図を全戸配布し、地域バスの啓発を行った。	自治区や地域の団体と連携し、利用促進PRを行う。また、小中学生や高校生の通学時の利便性に考慮しつつ、通学や通勤以外の利用者のニーズ把握に努め、持続可能な地域バスの運行形態の見直しを図っていく。

※前回：令和5年3月10日、前々回：令和4年3月10日

計画の推進体制



協議会実施日

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協議会												
主な行事				確保維持改善計画 ◆				次年度予算要求 ◆				第三者評価委員会 ◆

協議会の実施状況

- | | | |
|--------------|--------|-----------------------------|
| 第1回豊田市公共交通会議 | 6月19日 | 主な議題：地域公共交通確保維持改善事業について |
| 第2回豊田市公共交通会議 | 8月21日 | 主な議題：基幹バス、地域バス等の運賃体系の変更について |
| 第3回豊田市公共交通会議 | 12月20日 | 主な議題：とよたおいでんバスのダイヤ改正について |
| 第4回豊田市公共交通会議 | 2月 5日 | 主な議題：未定 |

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和5年12月20日

協議会名： 豊田市公共交通会議（事務局：豊田市都市整備部交通政策課）

評価対象事業名： 陸上交通にかかる地域公共交通確保維持事業（地域内フィーダー系統）

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【※航路名・航路名・設備名、運行（航路）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く）を受けている場合）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨
豊栄交通株式会社 稲武地域バス	稲武地域バス全域 （小田木～大野瀬）	利用実態に合わせてバス停の新設を随時実施。 利用促進策として以下の取組を実施。 ①地域が主体となって支える仕組みづくり ・バス利用促進委員会で利用促進について検討 ・アンケートの実施 ・バス利用促進委員会による、時刻表・バスマップを作成し全戸配布を行った。 ②高齢者の利用に配慮した運行と整備 ・利用者宅の近くにバス停を新設し利便性の向上を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 今年度の利用者数は3,644人（目標値2,119人）、収支率2.1%（目標値1.3%）であり、目標数値を達成できた。 利用者数増加の要因は通学児童生徒によるものが大きく、一般利用による増加はあまり見られなかった。	一般利用者が伸び悩んでいるため、自治区や地域の団体と連携し利用促進PRを行う。 また、イベント時にはバス利用のPR活動を行いバス利用の周知を図る。 地域の自治区へバス関係の要望調査を行い、地域住民の意見が反映されるように努める。
豊栄交通株式会社 藤岡地域バス	三箇線 （大平～メグリア藤岡店） 西市野々線 （西市野々～メグリア藤岡店）	通学に合わせたダイヤを設定している。 利用促進策として、以下の取組を実施。 ①地域住民のニーズを反映した路線の改善 ②時刻表の全戸配布 路線図とバス停の位置が一目で分かるような時刻表を作成し、全戸配布することで、普段地域バスを利用しない方にも、地域バスの啓発をした。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 今年度の利用者数は23,984人（目標値は22,843人）、収支率6.6%（目標値5.4%）であり、目標値を達成できた。 小中高年生の利用が主となっていることから学生利用が回復したこと、また、企業努力により運行経費が削減されたことで収支率が上がったことが要因と認識している。	自治区や地域の団体と連携し、利用促進PRを行う。 また、小中学生や高校生の通学時の利便性に考慮しつつ、通学や通勤以外の利用者のニーズ把握に努め、高齢者も利用しやすいバス運行を検討する等、持続可能な地域バスの運行形態の見直しを図っていく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年12月20日

協議会名：	豊田市公共交通会議
評価対象事業名：	陸上交通における地域内フィーダー系統
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	豊田市は、広大な市域に都市部や山村部が広がり、市民生活の移動手段として自動車が大きな役割を担っている。しかし、これからの超高齢社会や地球環境問題などを考えると、自動車に頼りすぎず、誰もが安全で安心に移動ができ、かつ交流が促進され、地域の活性化につながる交通体系を確立していく必要がある。 稲武地域バス、藤岡地域バスともに、地域内の通院、買い物、通学など住民の日常生活に欠かせない移動手段である。また、都市部に通う高校生など基幹バスでの移動が必須だが、基幹バスでは地域内を網羅することは困難であるため、地域バスとの接続によりそれらの移動需要に応えることができる。 どちらの地域でも地域住民による協議会を立ち上げ、地域の実情に応じた運行を目指し、行政と共働して路線を支えている。